

研究だより

1 第5回 研究授業より学んだこと

（令和4年7月7日（木）6校時 第1学年「ひき算（1）」 授業者 小林 知夏 教諭）

【協議会より】

①子どもの問いを生かす手立てについて

- ・予習をふまえてめあてを立てていた。
- ・挑戦問題が魅力的で子どもたちが意欲に学習していた。
- ・ワークシートが理解のレベルに合わせてできている。
- ・お話作りでは、数詞の扱いが難しいので例を見せた方がよい。



②タブレットを活用した児童同士の意見交流を深める学習展開について

- ・1年生でもタブレットを使い慣れている。
- ・個人→ペア→全体で交流していく学習展開がよい。
- ・発表する子どもが「テレビの画面にワークシートを映してお話を読み、その後でもう一度お話をしながら黒板でブロック操作をする」という流れにすると、さらに子どもが集中して聴くことができた。



【指導助言】（山田校長先生）

- ・1年生はいつも楽しく学習している。あいさつもとても上手である。
- ・いろいろな個性の8人だが、先生がヒントカード等を用意し、きめ細かく声をかけながら、丁寧に指導している。
- ・予習が1年生なりにいい形でできており、本時のめあてにつながっていた。
- ・タブレットの操作がとても上手である。落としたりせず、置き方など扱い方の指導も行き届いている。
- ・本時では子どもからめあてを引き出したが、指導案にある「ブロックとキーワード」という言葉がめあてにしなければ子どもたちは意識できない。
- ・今の時期、1年生は絵の中から言葉におこすことが難しい。「帰りました」や「残りました」などのキーワードにとらわれて子どもの自由な発想が出にくかった。書くことより、どんどん話してお話づくりをしていくと、子どもの発想で絵に合ったお話づくりができたかもしれない。
- ・書くことの代わりに、タブレットで録画してみんなに聞かせるという方法もあった。
- ・ペアトークはよかった。対話が一通り終わっても何回もさせる、発言をつなげる、疑問を投げかけることが大切である。
- ・子ども同士で話し合い深め合っていく力を育てることが学校全体の課題である。伝えることができる子どもを生かして全体に波及させることが大切。話す力、表現力が授業の中で見えるようにしたい。また、何をねらうのかをはっきりさせて授業をつくりたい。

2 今後の予定

（令和4年9月20日（火）6校時 第2学年 授業者 平田 千晶 教諭）

* 呉市教育委員会から、玉井指導主事先生に来ていただきます。